

平成29年度  
国有林毛二夕一会議  
(第2回 滋賀)  
意見交換会概要



平成29年10月  
近畿中国森林管理局  
企画調整課

国有林の管理の様子を見せてもらって、頭の中では綺麗なところと思っていましたが、採算の話聞かせてもらったからお金をかけるわけにもいかないというのでも理解できました。木材の単価が上がると良いのですが、上がったら上がったで競争の原理でだめになってしまうのかとも思います。どこが一番良い落としどころがあるのでしょうか。木材の価格は経済産業省の管轄でしょうか。林野庁が独立した機関になったら、省庁間の調整も出来るのではないのでしょうか。

木材の価格が下がっていることが林業の衰退を招く原点ですが、政府が市場に介入して木材の価格を決めることはしませんので、市場の値段に合わせて販売するしかないというのが現状です。物の値段は、需要と供給のバランスで決まりますので、外国から木材が入ってきたり、木材の代わりにコンクリートやプラスチックなどがあり、値段が下がっています。木材の値段が上がれば、代わりになる物に代替されるだけで、木材価格が上昇することで林業の採算性が向上するというストーリーにはなりにくいと思われることから、コストダウンに向けた取組を実施しています。

林野庁は農林水産省の中の組織ですが、独立性の高い外局という位置付けで、山の世界から丸太になるまでを所管しており、合板などの工業的な部分になると経済産業省などの所管になってきます。川下でニーズを作って売っていくために各省庁と連携しながら、木質バイオマスや大きな建物が建てられる合板（CLT）なども出てきていますので、少しずつ木材を使える余地を広げています。また、林野庁では大型の公共建築物で木材を使用しようと取り組んでおり、こちらの意見交換会会場も林野庁の補助金で造った木造施設です。

**大型の公共建築物を木造で施工するのはコスト的にはどうなんですか。**

コスト的には、同等もしくは高いぐらいです。他の原料の方が安いということであれば木造にはなりませんので、今後建築費用を下げていく必要があります。



意見交換会会場「高取山ふれあい公園 森林体験交流センター」

もし今後林業に携わっていく後継者を増やしていくと考えているのなら、文部科学省や教育委員会と連携して、高校生を対象に週1回や月1回このような取組をし、林業に携わってくれる生徒が大学に進学し、専門的な知識を習得して林業関係に就いて欲しいと考えています。鮭の放流ではありませんが、何か要素を作っておかないといけないのではと思います。私の生徒も大学の森林関係を受験したいと言っていますが、その下地を作っていただければと思います。

近年、林業の関係の公務員を目指したいという人が非常に少なくなっており、自治体も含めて今年度の試験が終了したところです。これから各大学に出向いて入庁パンフレットをお渡ししたり、比較的年齢の若い職員からのご案内の時間を設けていただけるようお願いに上がる予定です。高校も同じようなことを実施していますが、林業系の学科を持つ高校が各県非常に少なくなってきており、無いところもございます。森林管理局には高卒で入ってくる方もいますので、職員の出身校を中心に受験生の掘り起こしに力を入れていますが、まだまだ数が少なく、苦戦しています。最近、ほとんどの県に林業大学校というものがあり、機械の操作や伐採なども出来、2年間ぐらいでいろんな技能を身につけて林業の現場に出て行く育成のシステムが出来ています。現場を見せて欲しいなどのご要望にお応えしながら、林業の後継者の対応をしていきたいと考えているところです。また、インターンシップの受け入れもしております。

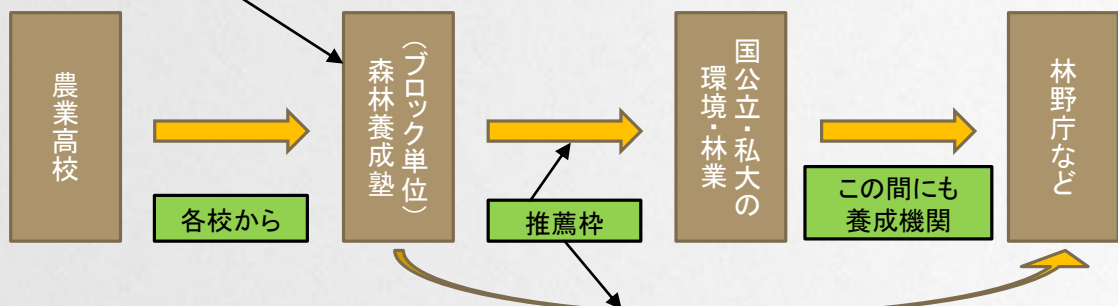
### 追加のご意見

奈良教育大学では、奈良県とタイアップしながら学校の先生を作っていこうとしている話を聞いたことがあります。農芸高校には農芸クラブというのがあるので、自然環境分野で山に行ったり川に行ったりといった環境学習などを行っているの、何か支援していただければありがたいのですが。

何かご希望がございましたら、当局の総務課もしくは森林管理署までお気軽にご連絡ください。

### モニター様からモニター会議レポートでいただいたイメージ図

森林養成塾では、毎月数回、省庁関係者および大学教授などによる講義やフィールドワークを実施



モニターになって半年が経ちましたが、国有林について感じたことを送っていますが、困っていることがあり、家から10分ぐらいの所に安宅の国有林があるのですが、規模が小さいしコメントを書く気にもならない。車で一時間以上かけて行けば別の国有林がありますが、そこまで行くには道も悪いし交通事故にあったり、クマに遭遇するかもしれません。時間も費用もかかりますし、危険を冒してまで国有林を見る気になりません。

今日国有林を見て、境界は意外とはっきりしていないのですね。国有林のそばに民家があった場合、民法で20年間占有すれば自分の物になるという規定がありますが、広い山の中を見回りされているのでしょうか。過去にないかも知れませんが、悪意のある者が勝手に占有している場合、どう認識していますか。

安宅（あたか）は国有林を代表するような所ではないかもしれませんが、石川署が署版のモニター会議のような現場見学会などを開催する事が出来れば、ご要望にお応えすることが出来るのかなと思います。時期設定などもありますので、今年度は厳しいと考えます。次年度以降検討したいと思います。

境界の件につきましては、民家の近くや農地の近くに国有林の境界があるところもあります。そのようなところでは、山奥とは違って非常に気をつけて、1年に数回点検・巡視しています。占有しているなどの情報がございましたら、最寄りの森林管理署までご連絡いただきたいと思います。



ハツ尾山国有林「境界標」の様子

シカの対策については、どの県でも努力していますが、1県で努力しても隣の県で被害が見受けられるようになるのですが、広域的な対策はとられていないのかなと思います。前に、福井県と石川県の県境に柵を設置して非常に問題になりました。温暖化の影響か、白山の標高の高いところにまで、どんどんシカが登ってきて、高山植物が無くなってしまおうと考えられています。広域的にシカを減らしていく対策が必要だと思います。

私は以前、神奈川に住んでいたのですが、丹沢の森もシカの被害がすごく、マツカゼソウなどのシカが食べないものしか残っていない状況です。その影響で、生物にいろいろな問題が出ています。シカがヤマビルを運んで畑の所に出てきます。神奈川県で山の手入れは、県民に募集をかけてボランティアを使ってやっています。材として出すようなところでなければ、間伐体験などをやっています。お金になるようなことだけではなく、自然は放っておくとどんどん荒れてきて、植物がいっぱい生えてくるとイノシシやクマなどが隠れるところが出て、問題が大きくなるのではないのでしょうか。国有林はぼうぼうで何もしていないという現状でしたが、お茶を一本プレゼントをするなどして人に手入れをしてもらうのも一つの手ではないかなと思います。木を一本育てるのに60年かかりますので、その間収入がないとお金が出て行くばかりですので、山の利用方法を考えないといけないと思います。

また、本日見せていただいた所はもう少し伐っても良いのではないかと思います。伐ってから10年経つというのを聞いたのですが、もう少し間引いた方が良いのではと感じました。

シカなどの鳥獣被害対策は、農業・林業への被害の対策と言うことで、それぞれ市町村や県ごとの取組になります。当局では石川から和歌山、山口県までの14府県を管轄しています。署同士の横の繋がりはありますので、府県を超えた情報を自治体に提供出来ますが、実施するかどうかは自治体の判断となりますので、足並みがそろいかどうかは難しいところです。シカが増えている要因としては、里山から人がいなくなっていて、山と畑の間の管理が出来なくなっていることや、昔は捕獲して食べていたので数が保たれていましたが、今は獲る人もいなくなってしまうので、今後地道に捕獲していかなくてはなりません。

山の手入れにつきましては、一般の皆様にも森に親しんでいただくべく、意識を持ってやっていきたいと思っています。国有林をフィールドとしてボランティア団体が活動するような制度もございますし、体験林業のようなものもやっています。滋賀署では2つのボランティア団体があり、年に7~10回程度活動されており、植栽したり手入れなどの活動をしたりしていただいています。今日も他の場所で、労働組合さんが体験林業活動を行っておりまして、当署の職員も参加し、除伐等で毎年汗を流されています。ここ数年で団体のメンバーさんが高齢になり、やめたところもあり、もう少し増やしていけないか考えているところです。

間伐の現場が少し混んでいるとのご意見ですが、今後しっかりとやっていきたいと思っています。今日お見せした箇所の一部でデータが残っていなかったのですが、滋賀署では過去には密植と言いまして1ヘクタール当たり4,000本~5,000本植えていた所もあり、その山の可能性があります。そういった所は何度も間伐する必要があります。

## ご意見 ①

・私は川下の紙関係の仕事をしており、川上の林業を知らなかったので非常に勉強になりました。F S Cという認証材がブームになっており、認証マークを付ければ売りやすくなっています。F S CやI S Oといった規格はヨーロッパが作っており、ブランドの価値を高めるための日本オリジナルの規格を広げていくことが出来れば国産の木材を使うことが出来るのでは無いでしょうか。

・私は主婦で、今日も遠足感覚で来てしまいましたが、とても勉強になりました。生物との共生は増えても困るし減っても困るし、本当に大変なんだなと実感しました。

・明日、ジビエ料理でシカを食べる会に参加する予定です。シカはあまりおいしくないと聞いていますが、どんな味がするのか教えてください。先程、国有林の中を見せていただいて肌で感じたこととして、小学校の時の夏休みの風景が思い浮かびました。青空と雲が夏休みに見た時のような感じで、とても心が安らぎました。出来たらあと10分でも20分でもあの場所にたたずんでいたいなという感触を得ました。山に来ると樹木からエネルギーをもらえるというのを今日再認識しましたので、是非今後も、日本の山を守っていただきたいなと更に強く感じました。

・自分の住んでいるところは田舎で、同じような景色で同じような環境ですので、親しみを感じました。

・私のふるさとは滋賀県の八日市市で、50年前の事を懐かしいなと思い出しました。奥伊吹を見させていただきましたが、冬の利用だけで無く夏の利用もあればいいなと思いました。昭和37年ごろにスキーに来た記憶があります。シカを英語で「DEER」、クマを英語で「BEAR」といいますが、どこか共通しているのかなと思います。それに関わっている現場の人達は、仕事とは言え日本を守る尊い仕事をしておられると思います。この会議も一過性で終わらないで、モニターの横の繋がりやネットワークが出来ると良いなと思います。外国資本による買収について回答をいただきましたが、現場では外国人がどんどん入っていますので、日本の国力を守るという意味でも大事な事だと思います。本日は非常に良い天気めぐまれ貴重な体験をさせていただきましたが、また続けていただき、皆さんと再会したいと思います。ありがとうございました。

・私は滋賀県に住んでいますが、初めて来た所でしたので、知らなかったことばかりで、いろいろ興味深く楽しめました。

## ご意見 ②

・今日、奥伊吹と八ツ尾山を見させていただきましたが、バスの中からの風景がすごく素敵でした。山も綺麗ですし、綺麗な川が流れており、その素敵な風景の中にシカの防護柵があるのを見ると残念に思います。これがいつ無くなるのか、無くなる日が来るのか、もっと広がって自分が住んでいるところにまで柵がされるのかと思うと、すごく悲しいなと思いました。檻の説明も聞きましたが、効率の良い対策ではないと思いました。シカと上手く共生出来たらいいなと感じました。

・今、里山のボランティアをしているのですが、イノシシの被害があつて柵をちよつとしていて、シカの被害にビックリしています。石川県と福井県の県境に柵をして、そのうち来るのかなと思つており、石川県もあのような状態になると悲しくなります。



八ツ尾山国有林「間伐」の説明の様子

(国有林モニター担当)  
〒530-0042  
大阪市北区天満橋1丁目8-75  
近畿中国森林管理局 企画調整課  
TEL：06-6881-3406  
FAX：06-6881-3415